

# とうきょう すぐわくプログラム活動報告書

園名	光明第七こども園
活動日時	2025.12.22
クラス（年齢）	道組（5歳児）
年間テーマ	自然

## 1. 活動テーマ

### 《テーマ》

保育室の床を塗装してみよう！

### 《テーマの設定理由》

これまでの木の遊具づくりや道具との出会いを通して、子どもたちは木という自然素材に親しみ、その特性や扱い方について関心を深めてきた。その中で、「自分たちが使っている場所もきれいにしたい」「木を大切に使いたい」という声が子どもたちから聞かれるようになり、身近な保育環境そのものに関わる活動へと関心が広がっていった。そこで今回は、日常的に使用している保育室の床を題材とし、塗装を通して素材と向き合う活動を行うこととした。

床塗装の活動では、単に作業を体験するだけでなく、「なぜ塗るのか」「どのように塗ると長く使えるのか」「みんなが気持ちよく使うためにはどうしたらよいか」といった問い合わせをもとに、子どもたち自身が考え、試し、工夫する過程を大切にした。年長児ならではの主体性や責任感を育むとともに、自然素材への理解や、環境を大切にしようとする気持ちを深めることをねらいとして、本テーマを設定した。

## 2. 活動スケジュール

二つのグループに分かれて向かい合い、マスキングテープのラインから始める。スポンジで決められた範囲を塗りつぶしたら、布で擦り染み込ませていく。

## 3. 探求活動の実践

### 《活動の内容》（活動のために準備した素材や道具、環境の設定）

ビニール手袋、梱包用ラップ、スポンジ、布、塗料、塗料皿

### 《活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り》

子ども：「スポンジだと、いっぱいついちゃうね」  
保育者：「どんなふうに持つと、つきすぎないかな？」  
子ども：「ぎゅってやらないで、そっとやる」「ポンポンってやるといい」

保育者：「布で拭くと、どうなる？」  
子ども：「つるつる！」  
「さっきより光ってる」

保育者：「どうして変わったと思う？」  
子ども：「はみ出たのがなくなったから」「やさしくこすると、きれいになる」

子どもA：「はじからやろう。真ん中あとで」  
子どもB：「じゃあ、こっちやるね」  
子どもC：「そこ、もうぬった？」  
子どもA：「まだ。かわいてからね」



## 4. 振り返り

### 《振り返りにより得た保育者の気づき》

・自分たちが日常的に使用する保育室の床を塗装するという活動を通して、子どもたちは「みんなが使う場所」という意識を強くもち、丁寧に取り組もうとする姿が見られた。年長児ならではの責任感や公共性の芽生えを感じた。

・作業の進め方について、保育者が細かく指示をしなくとも、子ども同士で声を掛け合い、役割分担や順番を考えながら活動を進めていたことから、これまでの話し合いや経験の積み重ねが、自主的な行動につながっていることを実感した。

・床の状態や塗料の乾き具合を観察し、「今は触らないほうがいい」「もう一度塗ったほうかよさそう」と判断する姿から、見通しをもって考える力や、状況に応じて行動を調整する力が育っていることに気づいた。